

おおくら

議会だより



春を待つ 四ヶ村の棚田
(滝ノ沢から望む)



もくじ

3月定例会	2~3P
一般質問	4~11P
そうだったの！村議会	12P

風水にふれる里

第 **115** 号

2018.春

発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報調査特別委員会 年4回発行
印刷／共栄印刷株式会社

3月定例会 平成30年度当初予算

総額53億6600万円を可決

肘折に新防災拠点整備 農産物加工場4月稼働 住宅団地造成年度内完成へ

3月定例会が6日から9日にかけて開催され、29年度専決予算案3議案、29年度補正予算9議案、30年度予算9議案を含め、43議案に加え、追加議案1議案を審議・可決。一般質問では7人が村当局の考えをただし、活発な議論が交わされました。

専決予算審議

・平成29年度大蔵村一般会計・水道・下水道予算(除雪費の追加)

条例等の改正

- ・大蔵村指定居宅介護支援等の基準を定める条例の設定(国の法改正に伴うもの)
- ・大蔵村農産物加工施設の設置に関する条例設定(加工場完成に伴う貸借契約に関するもの)
- ・大蔵村特別職の給与に関する条例改正(消防団の報酬改正)
- ・大蔵村村営バスに関する条例改正(往復券発行で割安に)
- ・大蔵村国民健康保険条例の一部改正(国保の県一本化に伴うもの)
- ・大蔵村介護保険条例の一部改正(介護保険料の改正)

【反対討論・佐藤雅之】3割の値上げに反対
 【賛成討論・八鍬信二】社会全体で支援する制度上、適正採決の結果賛成多数で可決
 (賛成) 加藤忠己、矢口 智、海藤邦夫、八鍬信一、中島幸夫、佐藤 勝、長南正一
 (反対) 早坂民奈、佐藤雅之

予算審査特別委員会

一般会計

歳入

問 法人住民税対象企業の増減があるか
 答 1号法人が2社閉鎖、3号法人1社が参入

※1号法人は資本金1千万、従業員50人以下、3号法人は資本金1億以下、従業員50人以下
 問 投資促進のために固定資産税の減免を考えるべきか
 答 「過疎地域固定資産税課税減免条例」で対応可

歳出

問 運転手雇、臨時雇い等の賃金が増えたか
 答 前年実績で計上、給与基準改正が要因

問 要介護者巡回事業委託の内容
 答 業者委託で、週一回程の訪問を実施

問 現在不在の、地域おこし協力隊の予算を計上しているか
 答 すでにでも来てほしいとの期待を込めての予算計上。現在もいろんな手段を使って募集中

問 「山間地域等農業機械導入事業」対象地域、内容は
 答 南山の地域が対象で、三分の一補助、上限100万円

問 「小規模事業者持続化補助金」は単年度か
 答 国・県への申請が基になる。実績へ入るで次年度以降も

問 消防活動の重要性増している、団員報酬の見直しを図るべき
 答 他町村と連携し、来年度に向け検討したい

補正予算

- ・大蔵村指定地域密着型介護予防サービスの条例の一部改正(国の法改正に伴うもの)
- ・肘折いでゆ館及びカルデラ館の指定管理者の指定(肘折温泉郷振興(株)に決定)
- ・湯の台スキー場の指定管理者の指定(肘折スキークラブに決定)

30年度予算

・平成30年度一般会計補正予算の他8特別会計補正予算(主に事業確定による精算)

人事案件

・有馬教育長の再任に同意

追加議案

・平成29年度一般会計補正予算(主に除雪費の追加)

特別会計

国保会計

問 保険料の改定の時期、引き下げは?
 答 確定申告が終わり、住民税等の経過を見ながら検討

問 納税回数を増やせないか
 答 納付額の決定から確定申告が始まる前までにしか対応できず、回数を増やすことは難しい

診療所会計

問 患者(利用者)数の推移は
 答 人口の減少と共に患者数も減少傾向にある

問 看護師雇の予算を計上しているが、体制は十分なのか
 答 看護師の応募なく、現在臨時看護師の募集をしている

新年度の主な事業

◆防犯灯LED化事業	1200万円
◆山間地域等農業機械導入事業	600万円
◆農地基盤整備事業負担	7140万円(新規含め7地区)
◆道路改良事業(合海大坪線、里道線他)	1億3300万円
◆肘折地区防災拠点施設整備事業	1億5000万円
◆旧肘折小中学校校舎解体事業	9100万円



介護保険会計

※保険料引き上げをめぐる反対者があり、討論を経て賛成多数で可決
 (賛成) 加藤忠己、矢口 智、海藤邦夫、八鍬信一、中島幸夫、佐藤 勝、鈴木君徳

【反対】早坂民奈、佐藤雅之(長南正一は委員長のため採決に加わらない)

後期医療

問 村内の対象者の増減は?
 答 ここ数年ほぼ変わらずに推移している

団地造成

問 子育て支援住宅居住者の受け入れとしてのみの整備と考えているのか?
 答 受け入れ先としてだけでなく、村外の方からの入居(定住)も期待



ここが知りたい 村政を問う

一般質問
3月
定例議会



一般質問とは？

村政全般に対し議員が質問し、意見を述べ村政をただし
ていくもので、大蔵村では1議員の持ち時間が45分です。

積雪深445cm観測史上最高を記録した
今年の大雪。おおくら君24世、完成式。

7議員が一般質問

5P 佐藤 勝 議員

- 災害時の迂回路確保が急務！
- 中高生の模擬議会開催で政治に関心を！

6P 加藤 忠己 議員

- 国道から、直接翠明荘に出入りできる道路の新設を！

7P 長南 正一 議員

- 軒先までの生活道路の整備を急げ！

8P 佐藤 雅之 議員

- 窓口公共サービスを郵便局などで！
- 自営業者にも配慮した行政運営を！

9P 八鍬 信一 議員

- 消雪道路の改修と万全の除雪対策をはかれ！

10P 早坂 民奈 議員

- 住民の「足」確保。デマンドタクシーや、有償ボランティアによる「送迎」サービスの導入を！

11P 海藤 邦夫 議員

- 合海地区の児童にも下校時にスクールバスの利用を可能に！



佐藤 勝 議員

災害時の迂回路について 村長 退避場所と道路状況、 ソフト面対応を充実

問1 毎年繰り返される塩・日陰間の災害による通行止めは、村民や観光客にとって、不便、不安は隠しきれない。過去には大きな人身事故も起きており、今後も災害が起きると危惧されている。生活道路としても重要な路線であり、根本的な迂回路の確保や改修が必要ではないか。

答1 命をつなぐ重要な道路であり、元来、迂回路ありきの路線であってはならないと考える。県には粘り

強く整備促進を要望し、スノーロックシエッドや落石防護堤などの災害防除施設を整備して頂いている。迂回路は村道藤野柳刈線を指しているが、交通量も少なく冬期閉鎖も考えられるが、国道の通行止めのリスクを背負い除雪を行っている。山間地に位置し、地すべり区域でもあり、迂回路として整備するには、莫大な予算と時間が必要になる。そこで、部分的な退避場所の確保と共に、規制状況や迂



なだれ多発区間

問2 何度も村として県に話している。今までのような工事をしており、災害は少なくなっている。

答2 先の国政選挙から18歳まで選挙権が引き下げられた。高校生や若者が政治や行政に関心を持ち、話題に上っている。

問3 少なくとも、事故は起きる。安心して通れるようにできないか。

答3 迂回路を整備しないのではなく、いかに安全にしていくか、村担当課と対処してゆく。

中高生を対象に模擬議会を 村長 学校とも協議し、議会主 体で進めては

で、執行部と共に進めていただきたい。





加藤 忠己 議員

翠明荘への道路新設の 必要性について 村長 新しい国道の供用開始に 合わせて新設

問1 現在翠明荘の行き帰りは、白須賀地内の国道458号を通り、村道白須賀・大坂線、村道白須賀5号線を利用している。工事中国道458号が供用開始後は、国道と村道白須賀・大坂線の交差点から村道を利用するが、もともと農道で坂道でもあり狭く、春から秋にかけてはトラクターやコンバイン、軽トラ等農業用車両が多く通り、注意が必要である。冬は凍結し、地域住民も騒音等から解放

答1 白須賀・大坂線は二

日町地区の農地に通う方や沿線住民の方、翠明荘職員に通勤、ショートステイの通園、入所者へのお見舞い等多くの方が利用している。今後新しく国道が出来ることにより、交通量の増が予想され、一層危険が増すも

のと考えられる。村としても対応が必要であると認識している。国道から直接翠明荘への乗り入れ道路の新設は、敷地内の建物の立地条件などから現状のままでは難しい。隣接する土地の地権者からご協力を頂き、畑側に拡幅し、村道白須賀5号線を延伸して新しい国道に接続するのが最善の策と考えている。ただ、現在も村内各地で村道の整備を進めており、白須賀大坂線と両方を整備することは難しい。用地買収や国道と接続するための協議が必要で、もう少し時間がかかる。国道の供用開始に合せた時期を考えている。

問2 新設する方向での答弁だが、多数の利用者があり、地域の要望でもある大坂線の整備はどうか

答2 大坂線の同時の整備は考えていない。村民の安全のため良い方向に向けて進めていけるよう対応してゆく。



翠明荘道路



長南 正一 議員

村道に取り付ける 生活道路の整備が急務 村長 限られた予算の中で順次整備

問1 肘折や四ヶ村地区は4Mを超える積雪となるなど、今年の雪処理には全村で難儀している。農業、観光、生活面等、幅広い分野で救済処置をして頂きたい。特に、村道に面していない住宅にとっては通路確保に苦勞している。

答1 道路整備は、これまで

かつて生活道路の確保として、積雪の多い地区を対象に、軒先まで取り付け工事をした経緯がある。行政の力でこそ出来る豪雪地帯の道路確保と除雪体制を急ぐ必要がある。そこで、

四ヶ村地区や、近年も藤田沢、作の巻地区などで、取り組んできた。又、用地の問題や住宅密集等の理由で、直接車の乗り入れが出来ない所も村内に多くあることを承知している。当然、

除雪車も乗り入れできない。「日本で最も除雪元備の村」を目指して道路整備、除排雪など克雪対策に取り組んでいる。生活道路は主要な幹線道路の整備と違い、村の単独事業となる。道路用地を無償提供して頂いても、村道用地として村の名義に変更し、道路詳細設計、工事費等、小規模な道路でも、膨大な経費が必要となる。30年度の予算においても、道路新設改良費に3路線を計上し、他にも道路維持費にも多くの工事費を計上している。限られた予算の中で順次整備してゆく。

答2 雪は一方では災害、又一方では資源となる。災害については国、県に根拠強く財政面での補助をお願いしてゆく。行政だけでなく、地域で助け合っていたら、村としても出来ることはしていく。

問2 恩恵にあやからない住民もいる。県議会でも雪条例の質問があった。県内でも雪の降らない所もあり夏と冬では道路条件が一変する。自力で除雪するには限界があり、大きい除雪車でないと大変である。冬の難儀さを解決してこそ、定住に繋がる。



雪の中の狭い入口



佐藤 雅之 議員

窓口公共サービスを郵便局などで 村長 費用対効果を見定めて

問 近年の急激な高齢化や豪雪など激しさを増す自然環境も考えて、住民票など公的証明書の申請や発行、行政サービスの実施などに郵便局やコンビニなどの民間機関に事務を委託できないものか。今後電子申請が主流になってくると考えるが、高齢者などの便宜を考え、電子申請の操作案内なども郵便局などに委託してはどうか。

答 コンビニなどでの交付サービスを実施している自治体は、都市部を中心に全国で457団体。郵便局では、試験的に全国14箇所端末を設置し運用。山形県では、山形市、酒田市、鶴岡市の3市が導入しており、主に住民票の写しや印鑑登録証明書の交付を行っている。コンビニや郵便局で各種証明書の交付を行うためには、システムを導入や「キオスク端末」と呼ばれる自動交付機の設置などの初期費用と、維持していくための運営経費が発生する。非常に高額な費用が発生し、財政的にも負担が大きいと聞いている。



肘折郵便局

利用状況は山形市では月130件で、まだまだ利用者の認知度が低い。コンビニや郵便局で交付することが出来る住民票の写しや印鑑登録証明書は、全体の40%ほど。年間2,400通で、手数料収入は100万円弱程度。多額の費用を掛けても利用は多くを望めない。ただ、IT技術は日進月歩の状況にあり、近い将来情報漏洩のリスクが低下し、導入費用の軽減が図られた場合、高齢化社会を見据えて、「費用対効果」を見定めてゆきたい。

自営業者にも配慮した行政運営を 村長 それぞれの形で支援。 「公平無私」で一定のルール必要

問 「大蔵村は農業と観光が主要産業」とよく紹介される。会社形式をとっている事業主もいるが、営業の実態は個人事業とあまり変わらない「自営業者」である場合が多い。様々な制度を申請するうえで、「事業」と「私営営み」を区別するのは困難であるし、実態にあわない。例えば、「村除排雪事業補助金」なども合理的な範囲で制度を適用するべきではないか。

答 自営業者の支援について、農業者、商工業者の皆さんに対し、法人、団体、個人の区分はあるものの、それぞれの形で補助制度を設けるなど支援を行っている。平成30年度予算の中にも、新たに山間地域における農業機械の更新制度や小規模事業者の設備投資を支援する小規模事業者持続化事業を盛り込んでいる。村除排雪事業補助金で「専用住宅」としたのは、村民の日常生活に直結する部分に限定したものの。住宅と小規模な店舗などの併用住宅の場合は、住宅部分を対象として運用を図っている。営利目的の施設においては事業者の責任のもとに行うべき。いろいろなパターンがあるが、住民生活と営業活動という点は、事業（制度）の趣旨からしっかりと分ける必要がある。公平無私な一定のルールが必要。



八鍬 信一 議員

消雪道路の改修と除雪対策 村長 将来は機械除雪も検討

問1 赤松地区内消雪道路が水の出が悪く、散水ノズルの周辺しか雪が消えず一車線になり、交互通行をしなければならなかった。今回の大雪に全く機能しない。数年にわたり県に改修要請をしているが改良されない。地区内の有志3名で除雪や道路の幅出しをし交通安全を確保しているが、雪庇や路盤の圧雪・凍結には家用機械では対処できない。安全な交通確保に向け、消雪設備の改修、もしくは機械除雪に変更するなど改

答1 当道路は、昭和50年代に整備されたもので老朽化し、うまく機能せず、通行に支障を来している状況である。現地の状況を確認し、重機械による路面の整正や路肩部分の排雪を県に依頼し対応して頂いた。これまでも改修の要望をしているが、全面的な改修までは至っていない。村内すべての消雪施設において毎年降雪前の施設点検や井戸の清掃、パイプ等部品の交換

を実施し、散水期間中はノズル調整など維持管理に努めている。県の散水消雪施設については現在ある施設を出来るだけ長く使うようにし、地域の特性や、道路状況等を勘案しながら、散水消雪をやめ、機械除雪への切り替えを検討している。ただ、切り替えについては地域との十分な協議と調整が必要であり、県と協力しながら、安定的な確保に努めていく。

問2 機械除雪もありうるが、住民の声を聞き決めた。そこで現状の把握とパトロールを強化し、散水状態の確認を県に強く要望して欲しい。

問3 現在の消雪設備管理の基本的な部分を地域住民に委託できないか。

答3 村管理はスイッチの入れ替えのみで、維持管理は老朽化しており、専門業者でないとは出来ない。



有志による除雪作業風景





早坂 民奈 議員

「デマンドタクシー及び有償ボランティア送迎サービス」の導入を 村長 交通事情や地域の特性を 踏まえて検討

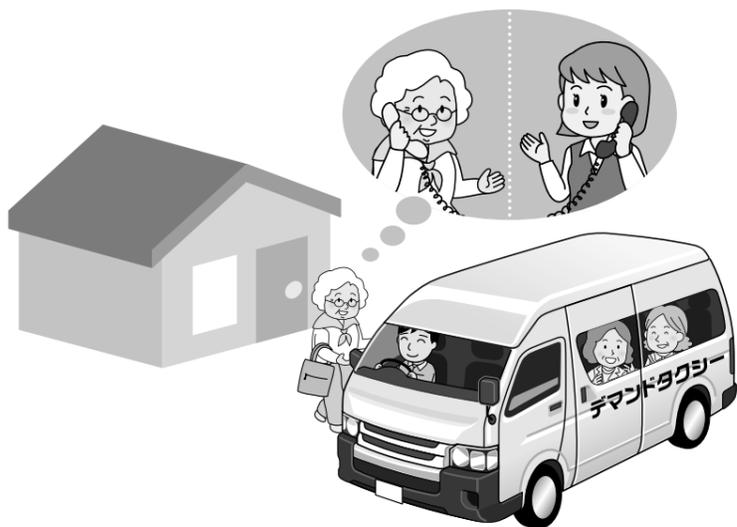
問1 バスに不便を感じている人やバス停まで行くのが大変な人たちは、玄関から乗れる方法があれば便利である。デマンドタクシーについては過去2回質問している。ここ数年で需要は確実にあり、近隣町村でも利用者の少ない町営バスを廃止し、切り替えている。村ではバスの乗降者数、利用者の多い時間帯など数値を把握しているのか。また、有償ボランティア送迎

サービスは安全面や責任問題など課題はあるが、交通弱者のニーズに答える意味でも、導入の考えはどうか。
答1 デマンドタクシーは、予約制により自宅から目的地まで比較的低料金で運行するシステムだが、予約の段階で調整が必要となる。乗降所が増えることにより、時間もかかり、台数も確保しなければならぬ。また、村内にタクシー事業者が無く、村に対応してくれる事

業者があるかも重要になる。肘折温泉の観光客のアクセスと交通弱者の足を守る2つのポイントがあり、観光と福祉の観点から分けて考えるか、経費の面と併せて模索、検討する。ボランティア送迎サービスも、人員確保が一番の課題で、本村の交通事情や地域の特性を踏まえて検討してゆく。

問2 高齢者が元気で暮らしてゆかためにも足確保は重要である。今後どのような交通手段が行われていくのか不安である。早急に動かなければ他町村に後れを取ってしまうのではないか。
答2 当村はスクールバス混乗方式を先駆けて行っている。デマンドタクシーにはメリットとデメリットもある。乗り合いに対する高齢者の理解とコスト的な面でも課題が多い。

問3 タクシー会社の問い合わせが商工会にはあるそうだが、難しく考えずに行えないか。
答3 デマンドタクシーは魔法の杖ではなく、今運行している混乗方式の村内巡回バスの自由乗降を早く実現してゆきたい。



海藤 邦夫 議員

合海地区の児童に下校時の スクールバスの利用を 村長 地域の皆さんの温かな目 で見守ってもらいたい

問 小・中学校の統合でスクールバスによる送迎が行われている。送迎はスムーズに行われ、保護者も助かっていると思う。清水・合海地区の児童は登校時、集団登校をしているので安心だが、下校時は、合海地区の児童は一人で帰らなければならない。1・2年生を一人で下校させた場合、国道の横断があり、冬期間は、道路や歩道が狭くもなり危険が伴う。合海地区の保護者は個人で学校まで迎えに

行っている状況。合海地区の1・2年生を地区のバス停までスクールバスに乗せて下校させられないか。
答 スクールバスの運行は村立小中学校の統合により、遠距離通学をせざるを得ない児童生徒の通学手段として、昭和62年から運行。合海地区の学童の通学路については、国道458号本合海バイパスが開通することに伴い、一時的に清水地区の信号機設置箇所を迂回するコースを指定。その

後、地域の皆さんからの強い要望により、合海地区の国道に押しボタンス式の信号機が設置されたことから、通学路として現在のルートに変更し指定された。

児童の下校時における安全確保については、小学校では現在ボランティアの見守り隊による通学指導をいただいているほか、地域の皆さんや保護者の方のご協力により、学校から自宅近くまで付き添っていただいている。子供たちが地域の方々から見守られ、伸びやかに育てられている。教育委員会では、児童生徒の安全確保のために、毎年村内全域の通学路について新庄警察署、県・村と合同で点検を行ない、より安全で安心できる通学路の確保に努めている。さらに、学校、PTA、保護者会等から要望のあった危険箇所などの点検もその都度実施している。

登下校時の安全確保については、常に情報を共有し、子供たちの安全確保に向け、臨機応変に対応し、学校では安全教育計画を立てて、児童に対し登下校の指導を通じて、自ら自分を守ることの大切さを教えている。

スクールバスは安全を確保する一つの手段だが、地域の方々から温かな目で見

守っていただき、大人の目が届く範囲で子供たちの交流を大切にしたいと思っている。その中で、通学ルールを会得していくことも、子供たちの将来に大きな力になると考える。



スクールバス



もうだったの! 村議会

村議会の紹介コーナー

No.11

今回は「議会主催の懇談会」

【村の各種団体との意見交換の場を多様に設けて、議会及び議員の政策能力を強化するとともに、政策提言の拡大を図る…】

私達は議会の充実活性化、次世代の議会への挑戦を促す目的で様々な改革を行っています。一昨年から行っている「議会報告会」と合わせ、村内の様々な団体と直接話し合うことによつて課題を共有し、今後活かしていきたいと考えています。

第1回目 懇談会 開催しました

開催日：平成30年2月20日
相手団体：肘折温泉、旅館、商店組合
話題：肘折温泉の現状とこれから

ちょうど積雪記録更新で「大雪割キャンペーン」の無料宿泊者が出たことで、全国からの問い合わせの対応に追われた直後の開催。

非常に大きな反響(宣伝効果)があったこと。また、日頃から組合間での様々な工夫により肘折温泉の魅力アップに努力していること。今年の大雪で道路事情も雪下ろしも大変だったことなど、多くの意見が出されました。

※改善が必要なところ、提案の内容は執行部に働きかけていきます。
寒い中のご参加ありがとうございました。



気軽に声を掛け合って話し合い、課題解決を図りましょう。

懇談会希望団体募集中!



議会広報調査 特別委員会

委員長	矢口 智
副委員長	早坂 民奈
委員	佐藤 勝
委員	佐藤 雅之

後書き

肘折では、2月13日積雪深445cmを記録し、従来の最高積雪深を大きく書き換えた。肘折温泉で取り組まれた「大雪割り」が各地で評判となった。宣伝効果は絶大である。

韓国、平昌で開催された冬季五輪の日本のメダル獲得数も大きく書き換えた。

自然界やスポーツ界の記録の「書き換え」は、驚きこそすれ、偉大さと誇らしさを感じる。残念なことに、驚きと合わせて怒りを覚えた「書き換え」もあった。言わずと知れた、厚生労働省の「裁量労働制」の不適切なデータの取り扱いと、財務省の「森友問題」を巡る決裁文書の「書き換え」だ。

国の意思決定が「改ざん」されては、国民は、何を信じればよいのか？

我が「議会広報調査特別委員会」も改ざんは、論外だが、「分かりやすさ」と「正確さ」の狭間で時折苦悩することも事実である。

文脈、当事者の口調によっても意味合いが変わることもある。だから、委員全員で確かめ合い検討している。

判断するのは、あくまで村民の皆様だが、その前提となる質問者、答弁者らの「真意」を簡潔、明瞭に伝えるためには「日々努力あるのみ」である。

(佐藤雅之 記)